STAR
マニュアスプレッダ

取　扱　説　明　書

マニュア標準ボディ

製品コード	K34912	K34913	K34914	K34915
型　　式	TMS1182	TMS1582	TMS1882	TMS2082

マニュア2Pボディ

製品コード	K34916	K34917	K34918	K34919
型　　式	TMS1192	TMS1592	TMS1892	TMS2092

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上、部品供給型式を必ずご連絡下さい。

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIアグリテック

■ 仕 様　＊仕様は、予告なく変更する場合があります。

1．マニュアスプレッダ

型式	アタッチ形式	最大積載重量 kg	機体寸法 mm			重量 kg	荷台寸法 mm			足回り		ヒッチ
			全長	全幅	全高		長さ	幅	高さ	トレッド mm	タイヤサイズ	
TMS1182M	ダブル	1100	3800	1700	1700	680	2200	1300	370	1300	10/80-12-6PR	標準ヒッチ
TMS1182W	ワイド		3850			700						
TMS1182D	ディスク		3900			720						
TMS1582M	ダブル	1500	4300	1700	1700	780	2700	1300	370	1300	10/80-12-6PR	標準ヒッチ
TMS1582W	ワイド		4350			800						
TMS1582D	ディスク		4400			820						
TMS1882M	ダブル	1800	4800	1700	1800	880	3200	1300	370	1350	11L-15-8PR	標準ヒッチ
TMS1882W	ワイド		4850			900						
TMS1882D	ディスク		4900			930						
TMS2082M	ダブル	2000	4800	1700	1800	910	3200	1300	450	1350	12.5L-15-8PR	標準ヒッチ
TMS2082W	ワイド		4850			930						
TMS2082D	ディスク		4900			960						
TMS1192M	ダブル	1100	3800	1700	1700	700	2200	1300	370	1300	10/80-12-6PR	２Ｐヒッチ
TMS1192W	ワイド		3850			720						
TMS1192D	ディスク		3900			750						
TMS1592M	ダブル	1500	4300	1700	1700	800	2700	1300	370	1300	10/80-12-6PR	２Ｐヒッチ
TMS1592W	ワイド		4350			820						
TMS1592D	ディスク		4400			840						
TMS1892M	ダブル	1800	4800	1700	1800	910	3200	1300	370	1350	11L-15-8PR	２Ｐヒッチ
TMS1892W	ワイド		4850			920						
TMS1892D	ディスク		4900			950						
TMS2092M	ダブル	2000	4800	1700	1800	940	3200	1300	450	1350	12.5L-15-8PR	２Ｐヒッチ
TMS2092W	ワイド		4850			950						
TMS2092D	ディスク		4900			980						

※ エレベータワゴンは、公道走行に対応していません。

■ 小型特殊自動車としての取り扱い

公道走行規制緩和に伴い、農耕作業用トレーラは道路運送車両法上の小型・大型特殊自動車に分類されます。当該作業機は、小型特殊自動車に分類され、小型特殊自動車は“公道走行の有無にかかわらず”軽自動車税を納付し、課税標識（ナンバープレート）の交付を受け、市町村条例に従い取り付けるなどの対応が必要となります。

手続きや取り付け位置などの詳細は、最寄りの販売店や市町村役所にご相談ください。

また、規制緩和に関する詳細は、日農工の農耕作業用トレーラのガイドブックをご参照ください。

※農耕作業用トレーラとは

農耕トラクタのみによりけん引され、農地における肥料・薬剤等散布、耕うん、収穫等の農耕作業や農業機械等の運搬作業を行うために必要な構造を有する被けん引自動車が対象となります。

※エレベータワゴンは、公道走行に対応していません。

■ 運転免許について

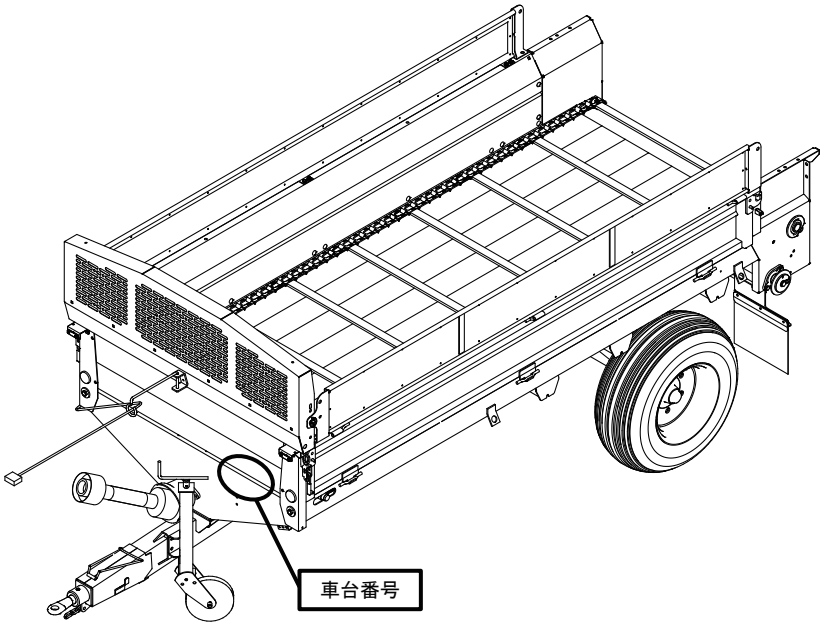
トラクタで、農耕作業用トレーラをけん引し公道を走行する場合は、以下の運転免許を取得している必要があります。

制限	農耕トラクタの寸法が全長４．７m以下、全幅１．７m以下、全高２．０m以下（安全キャブや安全フレームの高さ２．８m以下）、かつ最高速度１５ｋｍ／ｈ以下の場合	左記の寸法又は運行速度１５ｋｍ／ｈをひとつでも上回る場合
必要な運転免許証	小型特殊免許（普通免許等、原付免許以外）	・大型特殊免許（農耕用に限る、も含む） ・けん引免許（農耕用に限る、も含む） （※車両総重量７５０ｋｇを超える農耕作業用トレーラをけん引する場合）

■ 車台番号について

当該作業機には、製造番号と並列して機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。車台番号は、納税の際に必要となる場合があります。打刻位置と打刻形式は以下を参照ください。

型式	車台番号
ＴＭＳ１１８２	ＡＭＦ１１８２－ ******
ＴＭＳ１５８２	ＡＭＦ１５８２－ ******
ＴＭＳ１８８２	ＡＭＦ１８８２Ｃ－ ******
ＴＭＳ２０８２	



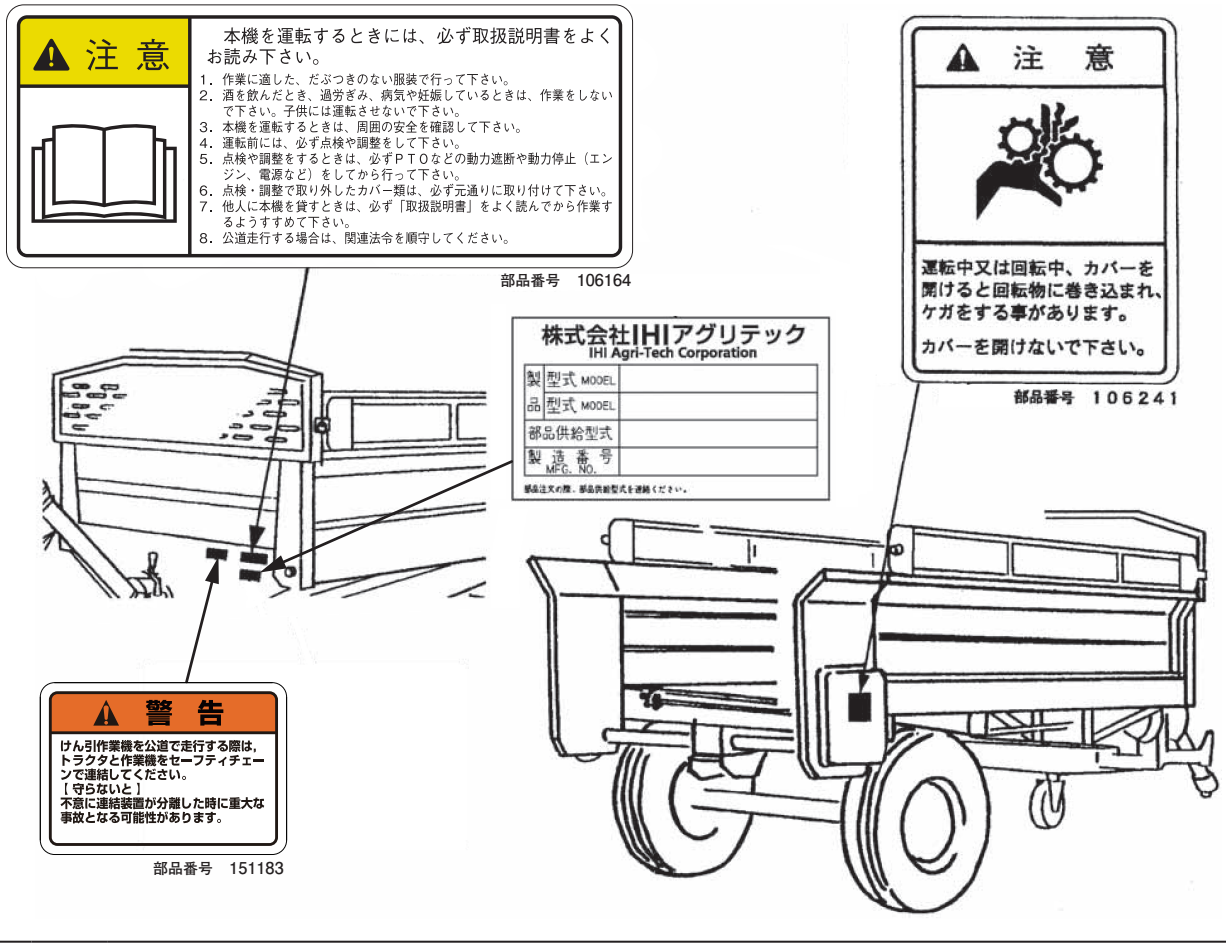
⚠ 安全に作業するために

安全に関する警告について

⚠印付きの警告マークは安全上、特に重要な項目を示しています。
警告を守り、安全な作業を行ってください。

⚠ 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあるものを示します。

警告ラベルの貼り付け位置



― ラベルが損傷したときは ―

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大切なものです。
ラベルが損傷したときは、すみやかに貼り替えてください。
注文の際には、この図に示す　部品番号　をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。
作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

作　業　前　に

取扱説明書は製品に近接して保存を

⚠ 注意

- 機械の取り扱いで分からない事があったとき、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。
  取扱説明書は分からない事があったときにすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

⚠ 注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。
  作業を始めるときは、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんなときは運転しないでください

⚠ 警告

- 体調が悪いとき、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。
  次の場合は、運転しないでください。

  □過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
  □酒を飲んだとき。
  □機械操作が未熟な人。
  □妊娠しているとき。

服装は作業に適していますか

⚠ 警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。
  次に示す服装で作業してください。

  □袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。
  □ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
  □ヘルメットを着用する。
  □はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸すときは

⚠ 警告

- 機械を他人に貸すとき、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。
  取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

⚠ 注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。
  また、道路を走行するための基準に不適合となり、公道を走行することができなくなることがあります。
  機械の改造はしないでください。
  アタッチメントは当社指定製品を使用してください。
  部品交換するときは、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

⚠ 警告

- 機械を使用するときは、取扱説明書に基づき始業点検を行い、異常個所は必ず整備を行ってください。
  守らないと、機械の破損を引き起こすだけでなく、機械に巻き込まれる等の思わぬ事故により、死亡または重傷を負う危険性があります。

エンジン始動・発進するときは

⚠ 警告

- エンジンを始動するとき、トラクタの横やステップに立ったまま行うと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。
  運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。

- エンジンを始動するとき、主変速レバーを「N」（中立）にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。
  主変速レバーを「N」（中立）にして行ってください。
- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
  周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。
- 室内で始動するとき、排気ガスにより中毒になる事があります。
  窓、戸などを開け、十分に換気してください。
- ＰＴＯを切らないでエンジンを始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。
  ＰＴＯを切ってから始動してください。

作業機を着脱するときは

⚠ 警告

- 作業機を着脱するためにトラクタを移動させるとき、トラクタと作業機の間に人がいると、挟まれてケガをする事があります。トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。
- アタッチメントを装着するとき、トラクタのエンジンをとめずに行うと、第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたりして、事故を起こす事があります。
  エンジンをとめて、作業機の車輪に輪止めをして行ってください。

⚠ 注意

- 作業機をトラクタに連結するとき、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業機をトラクタから切り離すとき、輪止めをせずに行うと、作業機が暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
  切り離すときは、必ず、スタンドを接地させ、作業機の車輪に輪止めをしてください。
- 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

パワージョイントを使用するときは

⚠ 危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
  カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
  損傷したらすぐに取り替えてください
  使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱するとき、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。
  ＰＴＯを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。
  トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

⚠ 注意

- 最伸時の重なりが 100 ㎜を下回ると、ジョイントを回転させたとき、破損しケガをする事があります。
  最縮時の隙間が 25 ㎜よりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きることがあり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。
  適正な重なり量で使用してください。
- パワージョイントを接続したとき、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをする事があります。
  溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

本機をトラクタにマッチングして公道走行するときは下記の法令を順守してください。
道路交通法、道路車両運送法、道路法。

その他詳細は一般社団法人日本農業機械工業会発行の公道走行ガイドブックをご確認ください。
※一般社団法人日本農業機械工業会
http://www.jfmma.or.jp/koudo.html

公道走行するときは

⚠ 危険

- 公道走行するときは公道走行関連法令を守り、周囲の安全確認を必ず行ってください。また、トラクタおよび作業機の周囲に人を近づけさせないでください。
  守らないと周囲の人を巻き込み、死亡または重傷を負わせることになります。
- 公道走行するときはＰＴＯを入れないでください。
  守らないと周囲の人を巻き込み、死亡または重傷を負わせることになります。
- 公道走行するときは運行速度 15 ㎞／ｈ以下で走行してください。
  守らないと、法令違反となります。また、思わぬ事故により、死亡または重傷を負うことになります。

⚠ 警告

- 公道走行するときは作業機がトラクタにしっかりと装着されていることを確認してください。
  守らないと走行中に作業機が外れ、周囲の人に当たり、死亡または重傷を負う危険性があります。
- 公道走行時は、トラクタと作業機をセーフティーチェーンで連結してください。
  守らないと、不意に連結装置が分離したときに重大な事故となる危険性があります。
- 公道走行するときは、堆肥や鶏糞などの積載物が零れないように積載してください。また、工具、部品など農耕作業に関係ないものを積載した状態で走行しないでください。
  守らないと走行中に積載物が落下し、死亡または重傷を負う危険性があります。
- 公道走行する前に灯火器、反射器の点検・清掃を行い、点灯・視認性を確認してください。
  夜間走行時は作業機の尾灯を点灯させてください。
  守らないと、後続車に追突されるなど思わぬ事故に巻き込まれ、死亡または重傷を負う危険性があります。
- 急ハンドルと急ブレーキ、急激なシフト・ダウン等の操作により、トレーラ・スイング、ジャック・ナイフ、プラウ・アウト、スネーキングなどトレーラ特有の異常現象が発生する恐れがあります。
  非常時以外は急操作を避け、安全運転を行ってください。
- 滑り易い濡れた路面や雪道などを走行しているとき、急激なエンジン・ブレーキでは、ジャック・ナイフ現象を起こす恐れがあります。
  急激なエンジン・ブレーキは避けてください。
- 滑りやすい路面でスリップすると、トレーラ・スイング、ジャック・ナイフ、プラウ・アウト、スネーキングなどトレーラ特有の異常現象が発生する恐れがあります。
  従って急制動、急ハンドル操作は避けてください。
- 公道走行するときは、左右のロワーリンクの高さを水平にし、トラクタ側の高さ方向アシスト機能をオフにしてください。
  守らないと、不意に誤操作によって作業が、横転し、死亡または重傷を負う危険性があります。
- 公道走行するときは、必ず移動形態にしてください。
  守らないと、法令違反となる場合があります。
  また、思わぬ事故により、周囲の人に死亡または重傷を負わせる可能性があります。
- トラクタと作業機はそれぞれ走行軌跡が異なるため注意して走行してください。
  守らないと、周囲の人を巻き込むなど死亡または重傷を負わせる危険性があります。

⚠ 注意

- 作業機の重みによりトラクタの制動距離が延びる可能性があります。
  早めにブレーキをかけるようご注意ください。
- 公道走行をする前に、作業機の付着物（堆肥・土など）を清掃し、除去してください。
  守らないと、堆肥・土などが道路上に危険な状態で放置され、法令違反となります。
  また、飛散した付着物が周囲の人に危険を加えるおそれがあります。
- カバーなどの部品のロック・固定は確実に行ってください。
  守らないと、走行中にカバーなどの部品が脱落し、周囲の人に危害を加える恐れがあります。
- 作業機単体で公道に駐車しないでください。
  守らないと、法令違反となります。

移動走行するときは

⚠ 危険

- 移動走行するとき、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。
  ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

⚠ 警告

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。トラクタには、運転者以外の人は乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
  急制動・急旋回はしないでください。
- 坂道・凹凸地・カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。
  低速走行してください。
- 旋回するとき、内輪差により周囲の人を作業機に巻き込み、ケガをさせる事があります。
  周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間隔を保って行ってください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こす事があります。
  路肩は走行しないでください。
- 高低差が大きい段差を乗り越えようとすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。
  あゆみ板を使用してください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。
  作業機の上には、人を乗せないでください。
- 突出部を折りたたまずに移動走行すると、障害物などにぶつかりケガをする事があります。折りたたんで移動させてください。
- トラクタと作業機はそれぞれ走行軌跡が異なるため注意して走行してください。
  守らないと、周囲の人を巻き込むなど死亡または重傷を負わせる危険性があります。

⚠ 注意

- 作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。
  移動走行するときは、ＰＴＯを切ってください。

荷物を積載するときは

⚠ 注意

- 過積載あるいは片荷積載をすると、旋回時や傾斜地での作業時、作業機が転倒し、ケガをする事があります。
  指定された積載量あるいは積載高さ以上の積載はしないでください。
  ほぼ平坦になるように積載してください。

作　業　中　は

作業するときは

⚠ 警告

- 作業をするとき、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。
  周囲に人を近づけないでください。
- 作業機指定のＰＴＯの回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。
  指定回転速度を守ってください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。
  作業機の上には、人を乗せないでください。
- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。
  低速で作業してください。
  下り作業をするとき、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。
  坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてください。
- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や、周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。
  前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。
- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。
  しっかりとハンドルを握って運転してください。
- ハウス内などの室内作業をするとき、排気ガスにより、中毒になることがあります。
  窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

⚠ 注意

- 運転中または回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
  カバーを開けないでください。
- 機械の調整や、付着物の除去などを行うとき、ＰＴＯおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

トラクタから離れるときは

⚠ 警告

- トラクタから離れるとき、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。

作業中が終わったら

機体を清掃するときは

⚠ 注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをする事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行なってください。

終業点検の励行

⚠ 注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたりケガをする事があります。
  作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

不調処置・点検・整備をするとき

⚠ 警告

- 配線に損傷があると、発煙・発火につながるおそれがあります。
  損傷がある場合には作業を中止し、部品交換を行ってください。

⚠ 注意

- 作業機に異常が生じたとき、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。
  取扱説明書に基づき点検・整備を行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ＰＴＯおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 作業機を上げた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下しケガをする事があります。
  下に入るときは台などで降下防止をして行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
  元通りに取り付けてください。

もくじ

本書はお買いあげいただいたマニュアスプレッダ本体ユニットの取扱説明書です。
各アタッチメントについては、そのアタッチメントに添付されている取扱説明書・部品表をお読みください。
尚、マニュアスプレッダの組み合わせ型式を本書の「7　型式一覧表」に記載しております。

⚠ 安全に作業するために

安全に関する警告について …… 1
作業前に …… 2
作業中は …… 6
作業が終わったら …… 6
不調処置・点検・整備をするとき …… 7

1 トラクタへの装着

1 各部の名称とはたらき ……10
2 適応トラクタの範囲 ……11
3 組立部品 ……12
4 トラクタへの装着 ……12
5 パワージョイントの装着 ……13
1. 長さの確認方法 ……14
2. 切断方法 ……15
3. 安全カバーの脱着方法 ……15
4. パワージョイントの連結 ……15
5. 移動形態 ……16

2 運転を始める前の点検

1 運転前の点検 ……17
1. トラクタ各部の点検 …… 17
2. 連結部の点検 …… 17
3. パワージョイントの点検 …… 17
4. マニュアボディの点検 …… 17
5. アタッチメントの点検 …… 17
6. 重要点検箇所 …… 18
2 エンジン始動での点検 ……19
1. 駆動系統の点検 …… 19
2. アタッチメントの点検 …… 19
3 給油箇所一覧表 ……19

3 作業の仕方

1 本製品の使用目的 ……21
2 アタッチメントについて ……21
3 床コンベヤの変速操作 ……21
4 サイドウィングについて ……21
5 移動走行 ……21

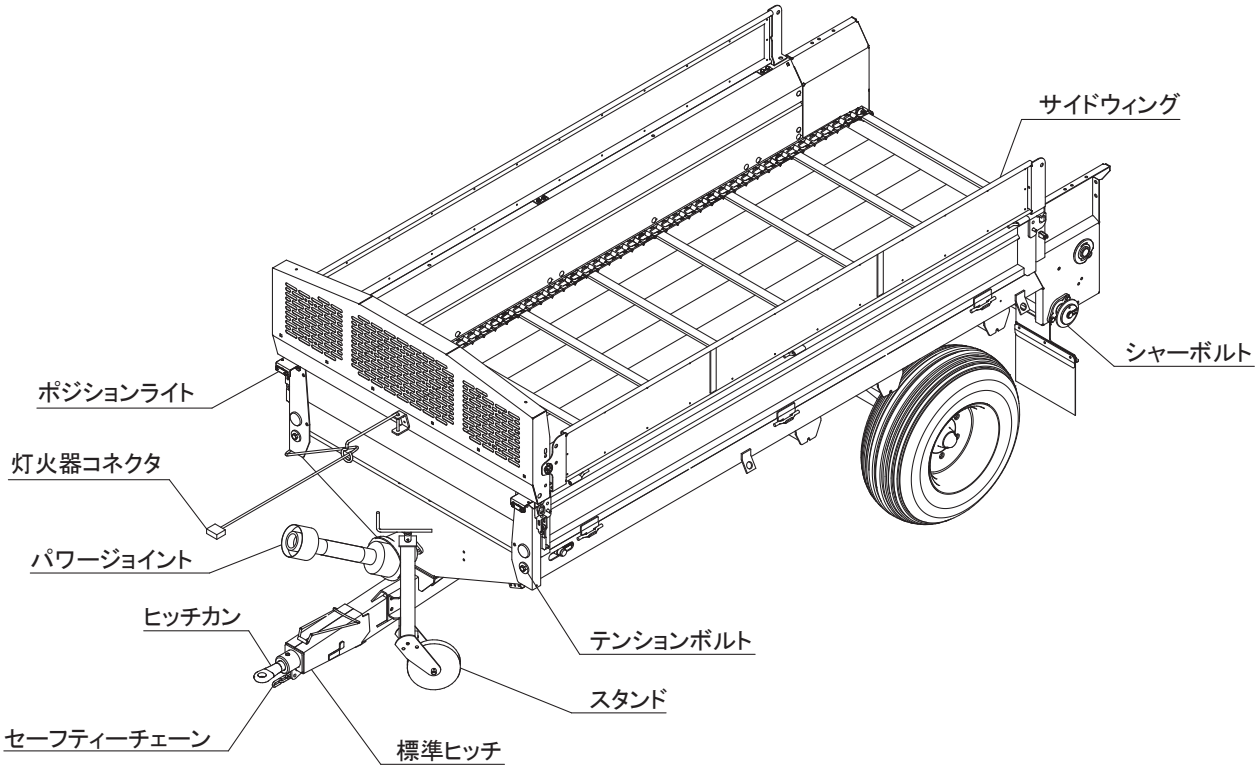
4 作業が終わったら

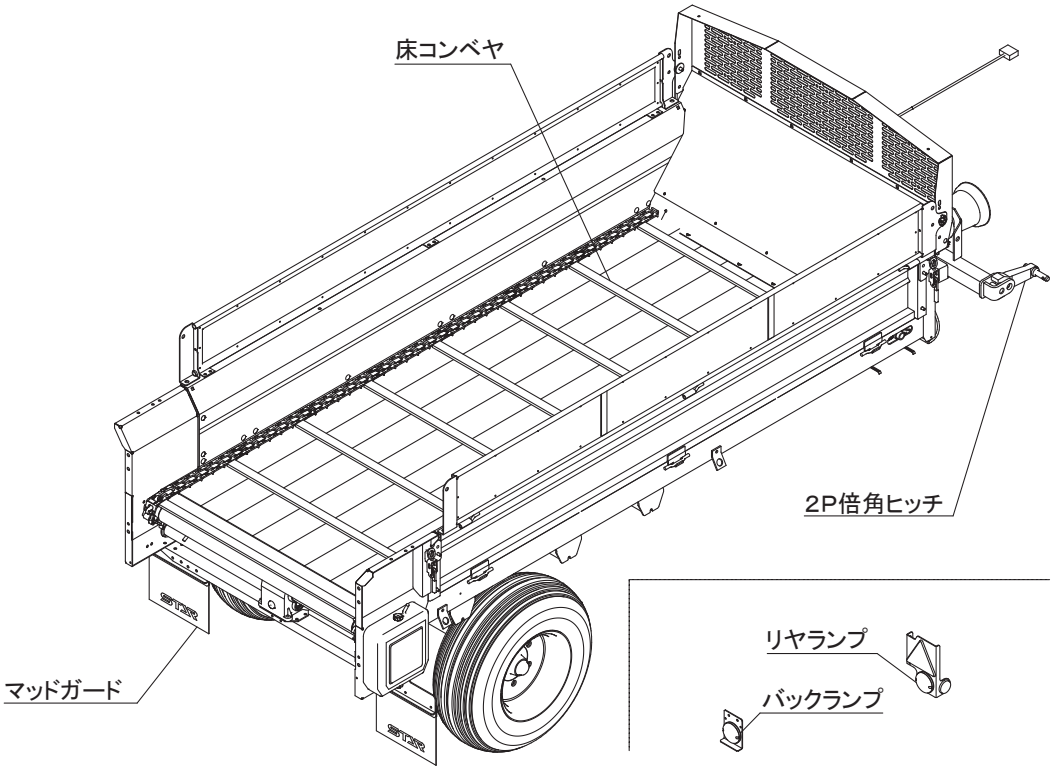
1 作業後の手入れ ……22
2 サイドボードの開閉 ……22
3 トラクタからの切り離し ……22
4 長期格納するとき ……23

5	点検と整備について 1 点検整備一覧表……24 2 各部の調整……25
6	不調時の対応 1 不調処置一覧表……27 2 配線図……28
7	型式一覧表 …… 29

1　トラクタへの装着

1　各部の名称とはたらき





1．**標準ヒッチ**
トラクタの固定ヒッチ、スイングドローバに連結して使用します。
2．**２Ｐ倍角ヒッチ**
トラクタのロワーリンクに連結して使用します。
3．**ヒッチカン**
トラクタのドローバに連結するのに使用します。
4．**スタンド**
トラクタから切り離すときに使用します。
5．**パワージョイント**
トラクタＰＴＯ軸に接続し、作業機本体へ動力伝達するのに使用します。
6．**テンションボルト**
このボルトを回して、チェーンの張りを調整します。
7．**床コンベヤ**
荷箱に積載された堆肥をビータ側へ送ります。
8．**サイドウィング**
移動時の堆肥のこぼれを防止します。
9．**シャーボルト**
過負荷から各部を保護します。
10．**リヤランプ、バックランプ、ポジションライト**
トラクタと連動し、ランプが点灯します。
公道走行するために必要な部品です。
11．**セーフティチェーン**
不意に連結装置（ドローバ）が分離したときにおいても、トラクタと作業機の連結を保ちます。
公道走行するために必要な部品です。
12．**マッドガード**
機体後方への坭・石はねを低減します。

２　適応トラクタの範囲

本製品は、適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるように設計されています。
不適切なトラクタとの装着によっては、本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼします。
この製品の適応トラクタと最大積載量は次のとおりです。

型式	最大積載量	適応トラクタ
TMS1182	1,100kg	11 ～ 26kW (15 ～ 35PS)
TMS1192		15 ～ 29.5kW (20 ～ 40PS)
TMS1582	1,500kg	15 ～ 29.5kW (20 ～ 40PS)
TMS1592		18 ～ 37kW (25 ～ 50PS)
TMS1882	1,800kg	18 ～ 37kW (25 ～ 50PS)
TMS1892		22 ～ 37kW (30 ～ 50PS)
TMS2082	2,000kg	22 ～ 37kW (30 ～ 50PS)
TMS2092		26 ～ 37kW (35 ～ 50PS)

取扱い上の注意

- 堆肥・鶏糞・牧草など積載時には、スタンドをセットしないでください。
破損の原因となります。

本製品の適応より小さなトラクタで使用すると、負荷に対し十分なパワーがでない事があります。
逆に、適応トラクタよりも大きなトラクタでの使用時には、過負荷に対し機体の適正値を超えたパワーが出てしまい、作業機の破損の原因になることがあります。

装着するトラクタに応じてオプション品を用意しています。

品　　番	名　　称	用　　途
1604030000	ヘンカンハーネス	トラクタ側の外部電装品取出し口がＤＩＮ規格、７Ｐコネクタで装備されている場合、灯火器を取り付けるときに使用します。（※１）

※１ 本機は日農工標準規格に準じた配線および８Ｐコネクタを採用しています。コネクタが合わない、もしくはトラクタ側の灯火器と連動しない場合は「6-2 配線図」を参照し正しく結線されているか確認のうえ、販売店にご相談ください。

3　組立部品

1．解梱

梱包枠に固定している部品をほどいてください。

2．組立部品の明細

梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要部品がそろっているか確認してください。

3．組立

各部品の組立に必要なボルト・ナット類は、梱包明細の符号を参照してください。

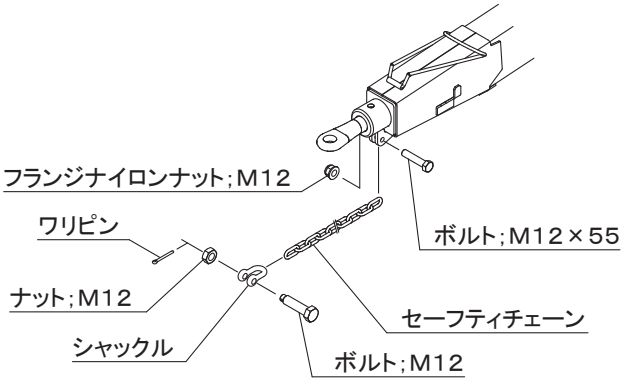
4．セーフティチェーンの取り付けとトラクタとの連結

（1）セーフティチェーンをドローバにボルト・ナットで固定してください。

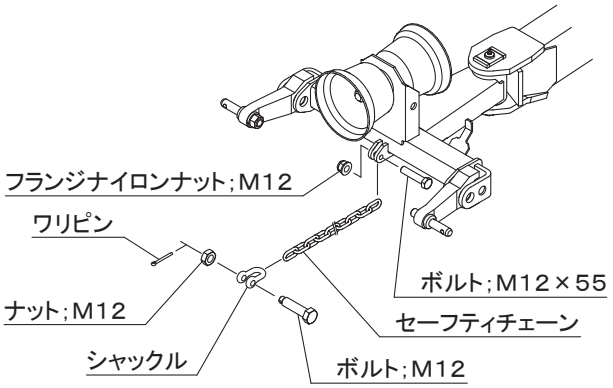
（2）シャックルを使用してセーフティチェーンをトラクタに連結してください。
シャックルは、付属しているボルト・ナットで固定し、最後にナットの抜け止め用のワリピンを使用してください。

※セーフティチェーンをトラクタに連結するときは、トラクタと作業機をマッチングした状態で旋回したときに、セーフティチェーンに余分なたるみがないか、機械との接触はないか確認してください。セーフティチェーンが長く、走行や作業に支障を来たす場合は、適当な位置でセーフティチェーンを切断してください。

※トラクタ側の連結先に関しては、販売店にご相談ください。



標準ヒッチ



2P倍角ヒッチ

4　トラクタへの装着

⚠ 警 告

- 作業機を連結するためにトラクタを移動させるとき、トラクタと作業機の間に人がいると、挟まれてケガをする事があります。
  トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

⚠ 注 意

- 作業機をトラクタに着脱するとき、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
  トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

1．ドローバへの連結

≪標準ヒッチの場合

：TMS1182、1582、1882、2082 ≫

（1）作業機のスタンドハンドルを回し、トラクタドローバの連結点の高さに合わせてください。

（2）トラクタのエンジンを始動し、静かに後退し、ドローバにヒッチカンを入れてください。

（3）ドローバおよびヒッチカンの連結点の穴をあ合わせて、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。

（4）トラクタ付属の連結ピンを通し、リンチピンなどで抜けどめをしてください。

（5）スタンドハンドルを回し、スタンド車輪が地面から上がったら車輪のピンを抜き、車輪を後方に折りたたんでください。
さらにハンドルを回し、車輪を最縮位置まで上げてください。このとき、ブラケットの間にストッパを確実に入れてください。

２．ロワーリンクへの連結

≪２Ｐ倍角ヒッチの場合

：TMS1192、1592、1892、2092 ≫

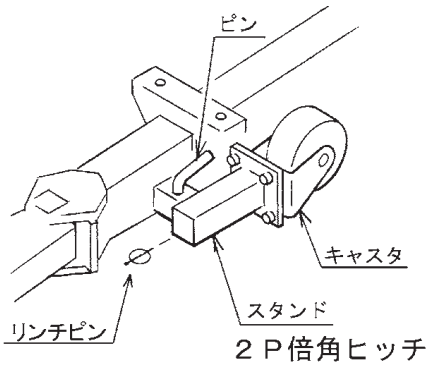
（1）トラクタのエンジンを始動して、トラクタのロワーリンク先端部と本作業機の左右のロワーリンクピンの位置が合うまで後進して、トラクタをとめてください。エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。

（2）左のロワーリンク、右のロワーリンクの順に連結し、抜けどめにトラクタに付いているリンチピンをロワーリンクピンに差してください。

（3）左右のロワーリンクが同じ高さになるように、トラクタ右側のアジャストスクリューで調整してください。

（4）トラクタのエンジンを始動して、トラクタ３点リンクを上昇する油圧レバーを操作して２Ｐフレームを上げ、エンジンをとめてください。

（5）スタンドを外し、図のように取付け、ピンで固定してください。



２Ｐ倍角ヒッチ

（6）ＰＩＣの軸心がトラクタ中心におおよそ一致するように、チェックチェーンをセットし、作業機の横振れをなくしてください。

３．電装品の取り付け

（1）灯火器コネクタの取り付け

トラクタの灯火信号取出コネクタと本機の灯火器コネクタを接続してください。

本機は日農工標準規格に準じた配線および８Ｐコネクタを採用しています。

(高馬力トラクタや海外製トラクタの場合、トラクタ側外部電装品取出し口にＤＩＮ規格７Ｐコネクタを採用していることがあります。

オプション品のヘンカンハーネス（160403）を使用すれば接続可能ですが、バック信号が出ていない可能性があります。)

トラクタ側の灯火器の動作と連動しない場合は、「6-2　配線図」を参照し、正しく結線されているかを確認のうえ、販売店にご相談ください。

また、トラクタによっては電装品を接続すると、リレーの容量が不足し、点灯しないことがあります。

トラクタのリレーの容量不足で電装品が点灯しない場合には、販売店にご相談ください。

取扱い上の注意

- トラクタに電装品の結線をするとき、エンジンキーをＯＦＦにしないで行うとショートする事があります。
  エンジンキーをＯＦＦにして行ってください。
- 作業機側コードは、作業機の動きに順応できる余裕を持たせ、また、他に引掛からないようにたるみをとり固定してください。

５　パワージョイントの装着

⚠ 危 険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
  カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
  損傷したらすぐに、取り替えてください。
  使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱するとき、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。
  ＰＴＯを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。
  トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

⚠ 注 意

- 最伸時の重なりが 100mm を下回ると、ジョイントを回転させたとき、破損しケガをする事があります。
  最縮時の隙間が 25mm よりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きることがあり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。
  適正な重なり量で使用してください。

１．長さの確認方法

（１）標準ヒッチの場合：TMS1182、1582、1882、2082

①作業機をけん引しながら前進し、トラクタと作業機がほぼ一直線になった状態で停止してください。

②パワージョイント単体で最縮長時の安全カバー（アウタ）端部位置を安全カバー（インナ）にマーキングしてください。

③パワージョイント（アウタ）から、パワージョイント（インナ）を引き抜いてください。

④ピン付ヨークのクランプピンを押して、パワージョイントのインナとアウタをＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸に連結し、クランプピンが元の位置に出るまで押し込んでください。

⑤安全カバーどうしを重ね合わせたとき、パイプ（アウタ）とパイプ（インナ）の重なり量が100mm以下の場合は、販売店に連絡し、長いパワージョイントと交換してください。

⑥ＰＴＯ軸およびＰＩＣ軸からパワージョイントのアウタとインナを取り外してください。

⑦作業機をけん引しながら旋回し、標準ヒッチ側面とトラクタ後輪の間隔が約20cm程度になったとき停止してください。

⑧ピン付きヨークのクランプピンを押して、パワージョイントのインナとアウタを、ＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸に連結し、クランプピンが元の位置に出るまで押し込んでください。

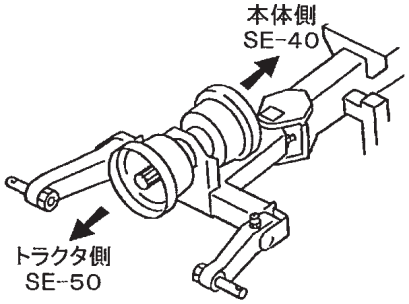
⑨安全カバー同士を重ね合わせたとき、安全カバー（アウタ）端部位置とマーキング位置の間隔が25mm以下の場合は、25mmの間隔を保つように切断方法の手順に従って切断してください。

取扱い上の注意

- パワージョイントを上下に重ね合わせたとき、トラクタ後輪に接触し、ほぼ直線状にならない場合は、標準ヒッチ側面とトラクタ後輪の間隔が広くなるようにトラクタを移動してください。

（２）２Ｐ倍角ヒッチの場合：TMS1192、1592、1892、2092

２Ｐ倍角ヒッチタイプに付属するパワージョイント２本のうち短いパワージョイント（ＳＥ－４０）を本体側に、長いパワージョイント（ＳＥ－５０）をトラクタ側にそれぞれ取付けてください。本体側に長いジョイント（ＳＥ－５０）を使用しますと、旋回時にどん突いて破損します。



①パワージョイント単体で、最縮長時の安全カバー（アウタ）端部を安全カバー（インナ）にマーキングしてください。

②パワージョイント（アウタ）からパワージョイント（インナ）を引き抜いてください。

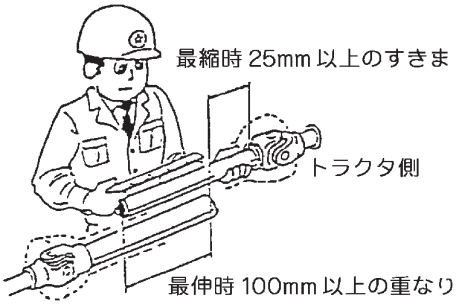
③トラクタのロワーリンクを昇降させて、ＰＴＯ軸とＰＩＣ軸が最も接近する位置で、昇降を停止させてください。

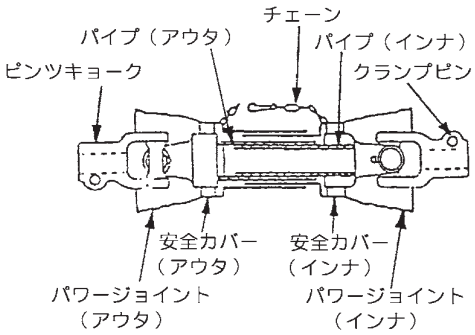
④ピン付ヨークのクランプピンを押して、ＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸に連結し、クランプピンが元の位置に出るまで押し込んでください。

⑤安全カバー同士を重ね合わせたとき、安全カバー（アウタ）端部位置とマーキング位置の間隔が25mm以下の場合は、25mmの間隔を保つように切断方法の手順に従って切断してください。

⑥ロワーリンクを昇降させて、ＰＴＯ軸とＰＩＣ軸が最も離れる位置で昇降を停止させてください。

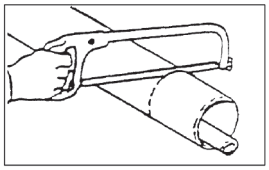
⑦安全カバー同士を重ね合わせたとき、パイプの重なりが100mm以下の場合は、販売店に連絡し、長いパワージョイントと交換してください。



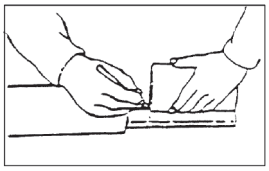


2．切断方法

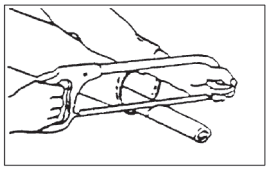
（1）安全カバーのアウタ・インナ両方を長い分だけ切り取ります。



（2）切り取った同じ長さをパイプの先端から計ります。



（3）パイプのアウタとインナ両方を金ノコまたはカッターで切断します。切断するときは、パイプの中にウエスを詰め、切り粉がパイプ内面に付着するのを防いでください。

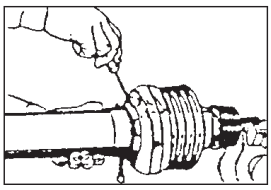


（4）切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げてからパイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、アウタとインナを組み合わせます。

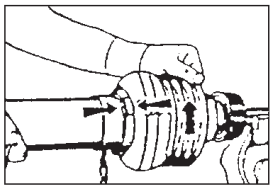
3．安全カバーの脱着方法

（1）安全カバーの分解手順

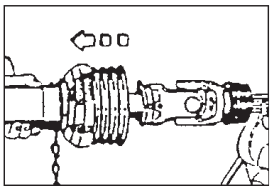
① 固定ネジを取り外してください。



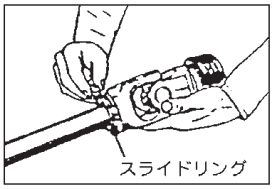
② 安全カバーを取りはずし位置へ回してください。



③ 安全カバーを引き抜いてください。

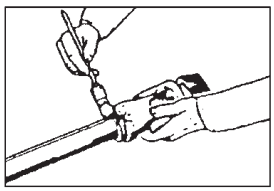


④ スライドリングを取り出してください。

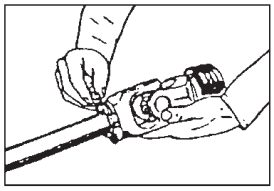


（2）安全カバーの組立手順

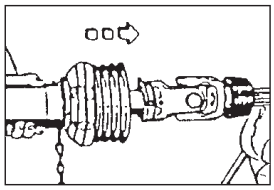
① ヨークのスライドリング溝とパイプ（インナ）に高品質グリースを塗ってください。



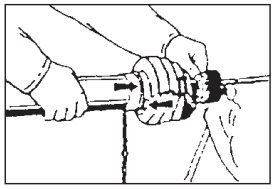
② スライドリングのつばをパイプ側に向け、切り口を開いて溝にはめてください。



③ その上に安全カバーをはめてください。



④ カバーをしっかり止まるまで回してください。



⑤ 固定ネジを締め付けてください。

4．パワージョイントの連結

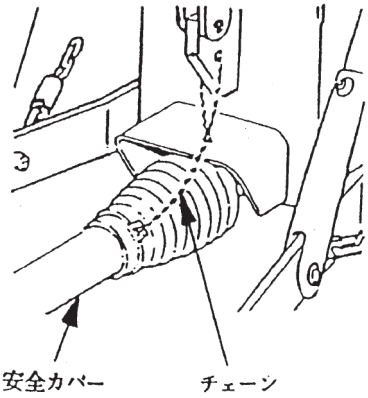
（1）ピン付ヨークのクランプピンを押して、ＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸に連結し、クランプピンが元の位置にでるまで押し込んでください。

⚠ 注 意

- パワージョイントを接続したとき、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをする事があります。
  溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

（2）パワージョイントは、アウタカバー側をトラクタＰＴＯ軸側に、インナカバー側をＰＩＣ軸に接続してください。

（3）安全カバーのチェーンを固定した所に取り付け、カバーの回転を防いでください。
チェーンは旋回時の動きに順応できる余裕を持たせ、また他へのひっかかりなどがないように余分なたるみを取ってください。



5．移動形態

公道走行をするときは、必ず移動形態にしてください。
※エレベータワゴンは、公道走行に対応していません。

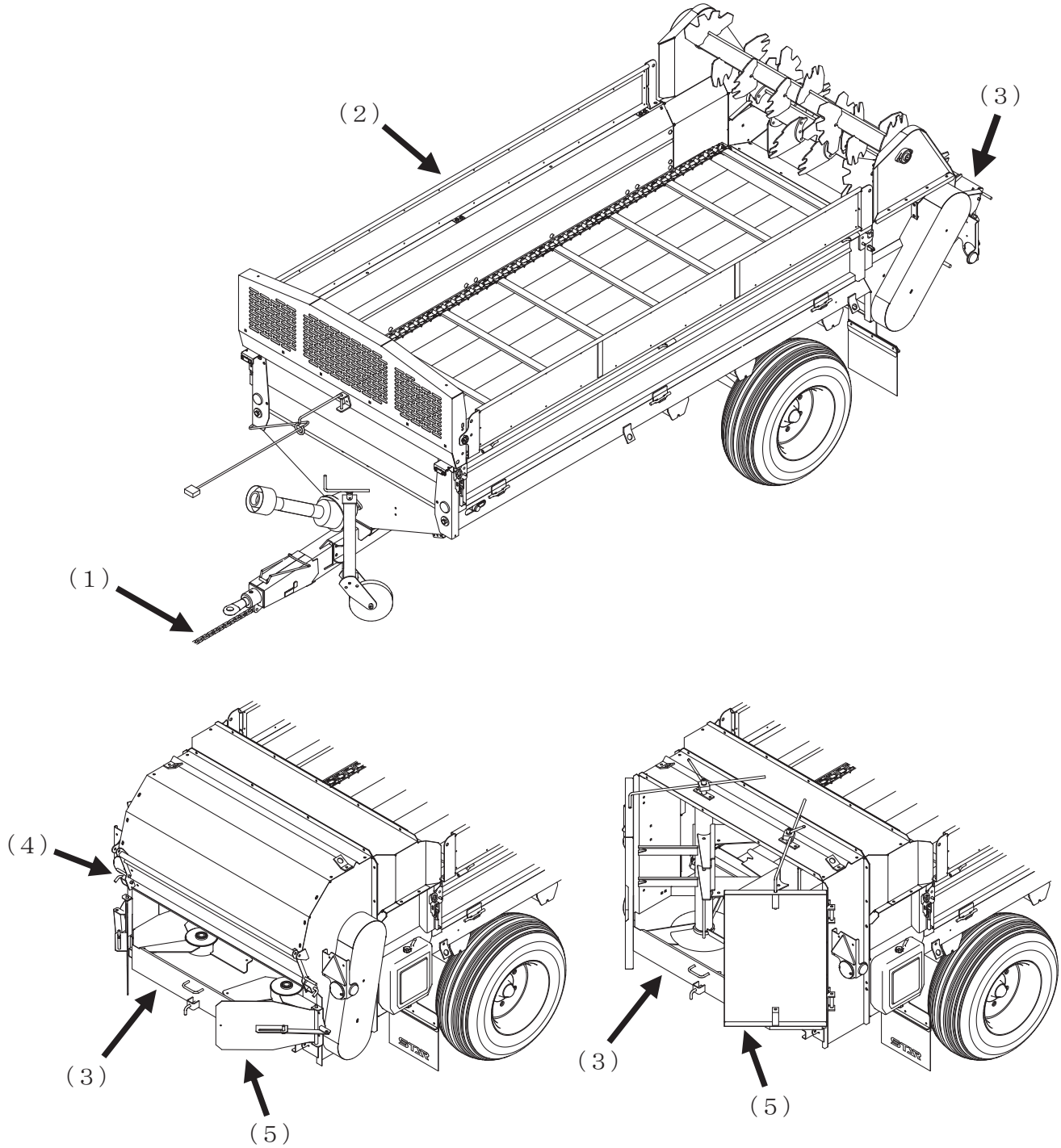
（1）セーフティチェーンをトラクタに連結してください。
連結方法の詳細は、「1-3-4　セーフティチェーンの取り付けとトラクタとの連結」を参照してください。

（2）サイドウィングを立ててください。

（3）シャットパネルを閉じてください。

（4）リヤボードを閉じてください。
※ディスクビータのみ

（5）規制版アタッチメント（オプション）を最大まで閉じてください。
※ワイド、ディスクビータのみ



2　運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1　運転前の点検

1．トラクタ各部の点検

トラクタの取扱説明書に基づき、点検を行ってください。

2．連結部の点検

（1）標準ヒッチの場合：TMS1182、1582、1882、2082
トラクタのドローバと本作業機のヒッチカンがトラクタ付属の連結ピンで連結され、リンチピンなどで抜け止めが確実にされているか。
不具合が見つかったときは「1-4-1　ドローバへの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

（2）２Ｐ倍角ヒッチの場合：TMS1192、1592、1892、2092
ロワーリンクピンには抜け止めのリンチピンが確実に挿入されているか。
不具合が見つかったときは「1-4-2 ロワーリンクへの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

（3）電装コネクタの点検

⚠ 警 告

- 電気配線に断線や被覆の破れがある場合、漏電やショートによる火災事故の原因となります。

① トラクタの電装コネクタと確実に接続されているか。
② 電装コードに余分なたるみはないか、また、適度な余裕があるか。
③ 電装コードに被覆の破れや、挟み込みによる断線がないか。
④ 灯火器がトラクタのブレーキ、尾灯、後退灯、ウィンカーと連動して点灯するか。

3．パワージョイントの点検

（1）ジョイントの抜け止めのクランプピンが、ＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸それぞれの溝に納まっているか。
（2）安全カバーに損傷はないか。
（3）不具合が見つかったときは、「1-5　パワージョイントの装着」の説明に基づき、不具合を解消してください。

4．マニュアボディの点検

（1）ボルト・ナットに緩みはないか。
安全上等に重要な部分のボルト・ナットについては、「6　重要点検箇所」に基づき、緩みがないか点検してください。
（2）タイヤの亀裂・損傷・摩耗はないか。
不具合が見つかったときは、交換してください。
（3）タイヤの空気圧は適正か。

〈タイヤの空気圧〉

⚠ 警 告

- 適正空気圧を厳守してください。
特に空気の入れ過ぎには十分注意してください。
　守らないと、タイヤが破裂し、死亡または重傷を負う危険性があります。

不具合が見つかったときは、表に基づき適正空気圧にしてください。

型　式	TMS 1182, 1192 1582, 1592	TMS 1882, 1892	TMS 2082, 2092
タイヤサイズ	10/80-12 -6PR	11L-15 -8PR	12.5L-15 -8PR
空気圧	220kPa (2.3kg/㎠)	250kPa (2.6kg/㎠)	280kPa (2.8kg/㎠)

（4）床コンベヤチェーンの張りは適正か。
不具合が見つかったときは「5-2-2　床コンベヤチェーンのテンション」の説明に基づき張りを調整してください。
（5）損傷部品はないか。
不具合が見つかったら部品の補修または交換してください。
（6）各部の給油は十分か。
不具合が見つかったときは「2-3　給油箇所一覧表」の説明に基づき給油してください。

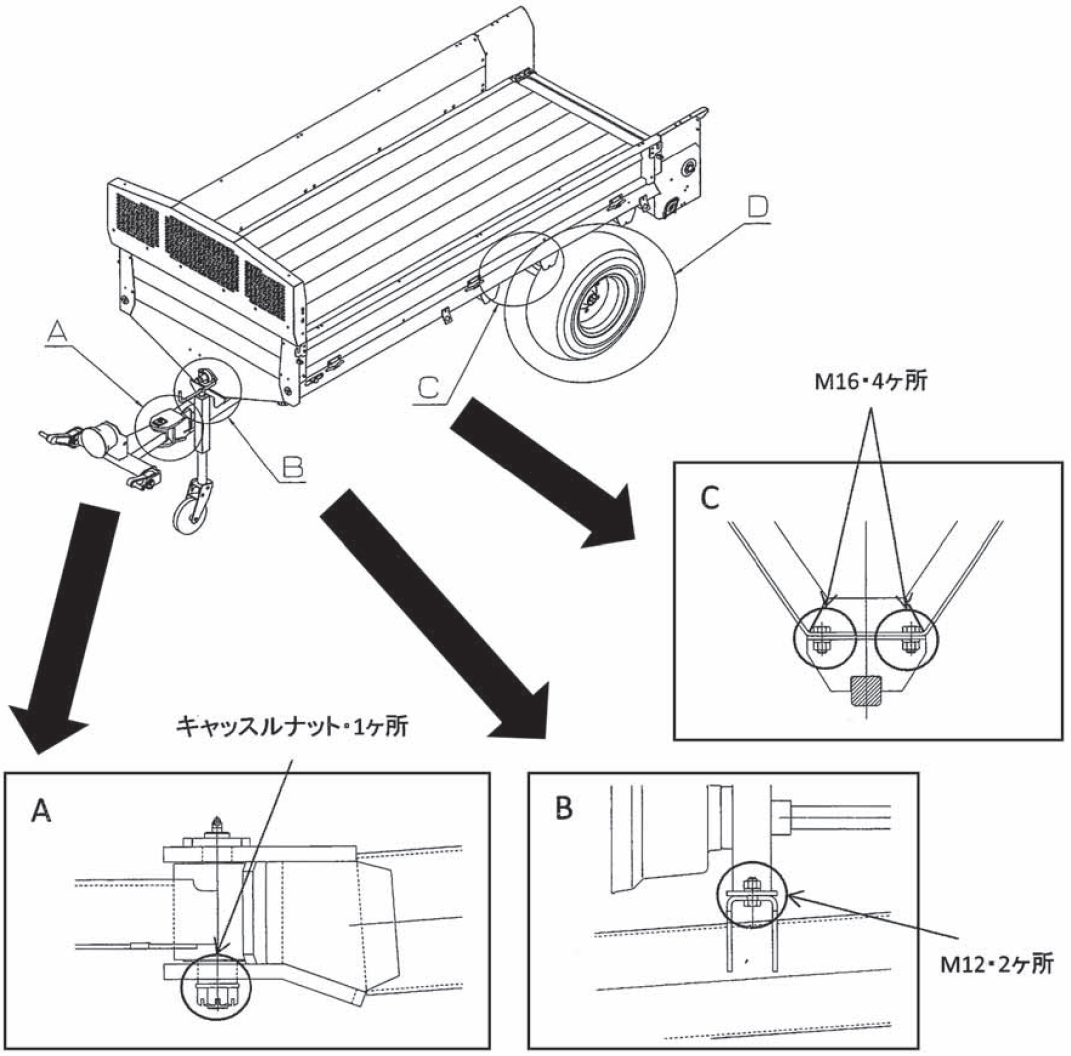
5．アタッチメントの点検

アタッチメントに付属している取扱説明書の「運転前の点検」の説明に基づきアタッチメントを点検してください。

６．重要点検箇所

⚠ 警 告

- 重要点検箇所は、毎日の始業前に必ずボルト・ナットの緩みの点検をおこない、緩みがあった箇所は表に基づき増し締めをおこなってください。
  守らないと、機械に巻き込まれる等の思わぬ事故により、死亡または重傷を負う危険性があります。
  ※本図は２Ｐ倍角ヒッチの図となっていますが、標準ヒッチも同様に確認をお願いします。



部位	重要点検箇所	ねじサイズ	工具２面幅 [mm]	締結数 [箇所]	締付トルク [N・m]	備考
A	２Ｐヒッチ管（キャッスルナット）	M24 × 1.5	36	1	80	※ 1、2 参照
B	ドローバ・フレームの連結部	M12	19	2	75 ～ 100	増し締め
C	車軸・フレームの連結部	M16	24	4	180 ～ 230	増し締め
D	ホイールナット	M16 × 1.5	27	10	210 ～ 230	増し締め TMS1182,1192,1582,1592
		M18 × 1.5	24	12	300 ～ 330	増し締め TMS1882,1892,2082,2092

※１　マニュア２Ｐ倍角ボディ（TMS1192/1592/1892/2092）のみ。
※２　緩みがあれば規定トルクにて増し締めし、その後ワリピンの入る溝の位置が合うまでさらに締めこんでください。
　　このとき、ワリピンは再使用せず、新品に交換してください。

2　エンジン始動での点検

⚠ 警 告

- ＰＴＯを切らないでエンジンを始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。
  ＰＴＯを切ってから始動してください。

1．駆動系統の点検

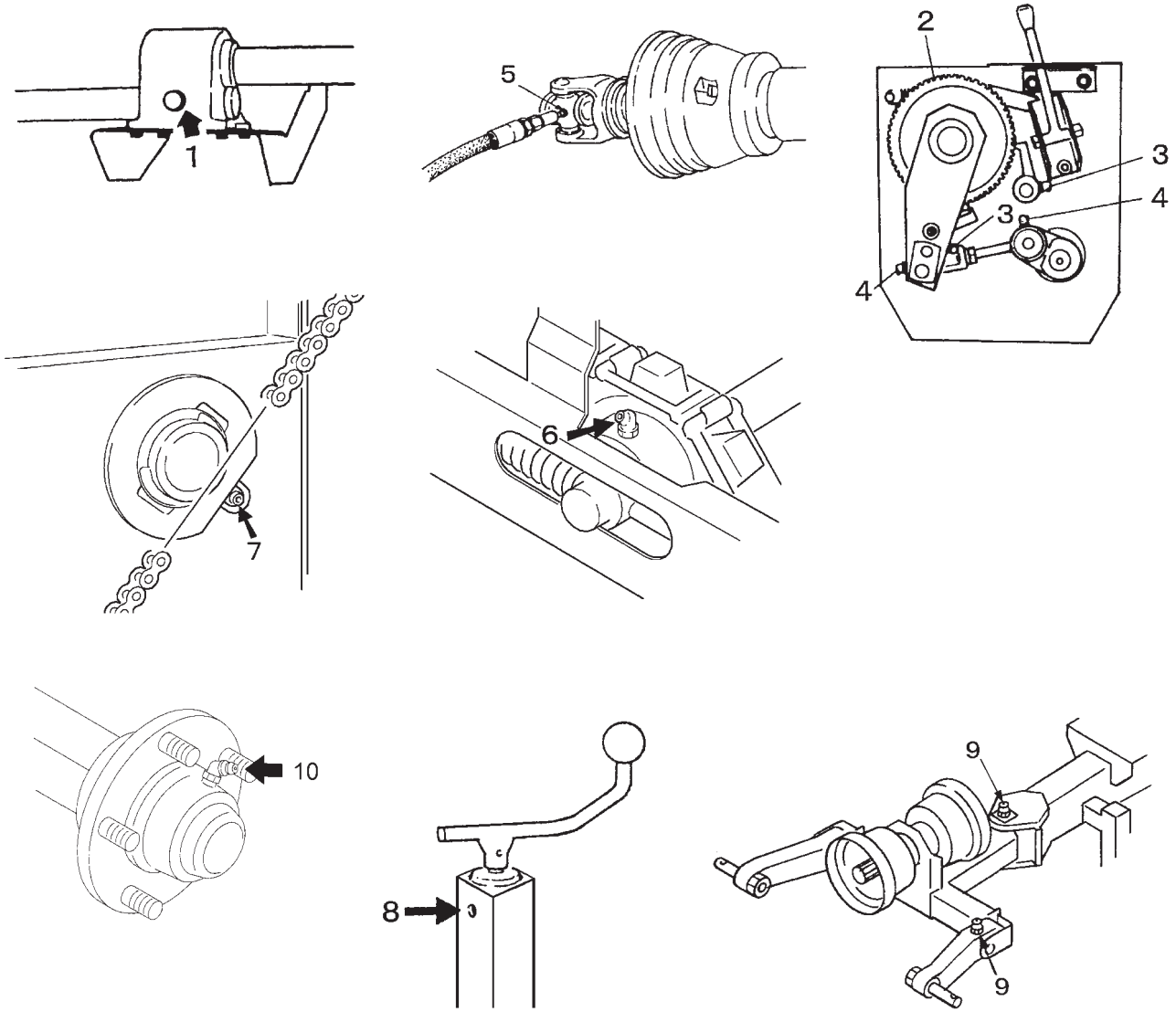
トラクタのエンジンをかけ、ＰＴＯを接続し、低速で回転させたとき、異常音や異常振動がないか。
不具合が見つかったときは、「6-1　不調処理一覧表」に基づき不具合を解消してください。

2．アタッチメントの点検

アタッチメントに付属している取扱説明書の「エンジン始動での点検」の説明に基づきアタッチメントを点検してください。

3　給油箇所一覧表

○　給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。
○　グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。



No.	給 油 場 所	箇所	潤滑油の種類	交 換 時 間	量	備　　考
1	ギヤボックス	1	※１ 集中給油 グリース ４種；２号	作業シーズン毎	適量	補充
2	ラチェット	1	〃	作業毎	〃	爪部に塗布
3	ノッチ	2	〃	〃	〃	給脂 （グリースニップル）
4	コネクティングロッド	2	〃	〃	〃	〃
5	パワージョイント	―	〃	〃	〃	〃
6	コンベヤ従動スプロケット	2	〃	〃	〃	〃
7	コンベヤ駆動軸軸受	2	〃	〃	〃	〃
8	スタンド	1	〃	〃	〃	TMS 1182,1582, 1882,2082
9	２Ｐ倍角ヒッチ	3	〃	〃	〃	TMS 1192,1592, 1892,2092
10	※２　ハブ	2	〃	〃	〃	給脂 （グリースニップル）

※1　ＩＤＥＭＩＴＳＵ「ダフニー　エポネックスＳＲ　Ｎｏ．２」または相当品をお使いください。
※2　ハブに給脂するときは、ハブキャップを外して古いグリースの排出を確認してください。

3　作業の仕方

1　本製品の使用目的

マニュア標準ボディはアタッチメントを装着し、堆肥・鶏糞の散布や、牧草・とうもろこし等飼料作物の運搬と荷降しに使用します。
マニュア２Ｐ倍角ボディはアタッチメントを装着し、堆肥・鶏糞の散布に使用します。
他の用途には使用しないでください。

2　アタッチメントについて

マニュアボディは、堆肥散布や飼料作物の荷降し等のアタッチメントを装着して使用します。
必要なアタッチメントを装着して作業してください。
アタッチメントの取扱説明書・部品表はそれぞれのアタッチメントに付属しています。

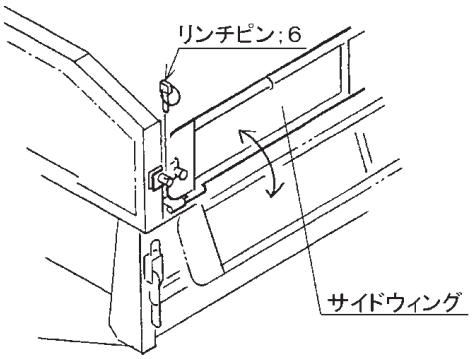
			型式	装着アタッチメント			
				マニュアアタッチメント	ワイドビータアタッチメント	ディスクビータアタッチメント	エレベータアタッチメント
マニュアボディ	樹脂床板	標準ヒッチ	TMS1182	AMN1861	AWB1821	ADW1821	—
			TMS1582				—
			TMS1882				—
			TMS2082				—
		２Ｐ倍角ヒッチ	TMS1192				—
			TMS1592				—
			TMS1892				—
			TMS2092				—

3　床コンベヤの変速操作

コンベヤ速度は、５段階に変速できます。
チェンジレバーを希望変速位置溝までスライドさせ、レバーをたおし、溝にはめこむと、変速操作は完了します。尚、チェンジレバーをＮ（中立）にするとコンベヤのみ停止します。
床コンベヤ変速段と散布量の関係は、アタッチメントに付属している取扱説明書の「床コンベヤ変速段と散布量」を参照してください。

4　サイドウィングについて

移動走行時の堆肥のこぼれを防止する事ができます。
堆肥の積み込みおよび散布は、リンチピンを外し、サイドウィングを倒した状態で行います。



移動走行はサイドウィングを立てた状態で行います。
必ずリンチピンで固定してください。

5　移動走行

⚠ 注 意

- 作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。
  移動走行するときは、ＰＴＯを切ってください。

本作業機に堆肥・鶏糞及び牧草・とうもろこし等の飼料作物を積載して移動するとき、トラクタの操縦性は空車時とは大きく変化します。
堆肥等の積載によりトラクタの前輪荷重割合が減少し、操縦性が低下したり、ブレーキをかけたときの制動距離が長くなるなどの現象があらわれます。
移動走行するときは、低速走行し、ブレーキ操作は早めに行ってください。

4　作業が終わったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。
アタッチメントについては、アタッチメントに付属している取扱説明書の「作業が終わったら」の説明に基づき手入れをしてください。

⚠ 注 意

- 動力を切らずに、回転部、可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをする事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

1　作業後の手入れ

1．機械に付着していたり、残っている堆肥等は、ほ場の中できれいに取り除いてください。
　特に、回転部に巻き付いたワラやトワインなどは、シール部品、軸受部品等を傷つけますので、完全に取り除いてください。
2．ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落がないか、又、破損部品がないか確認してください。
　異常があれば、ボルトの増締め、部品の交換をしてください。
3．各部の給油箇所は「2-3 給油箇所一覧」に基づき給油してください。
4．ＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸、ジョイントスプライン部など、塗装されていない露出部は、さびを防ぐためグリースを塗布してください。

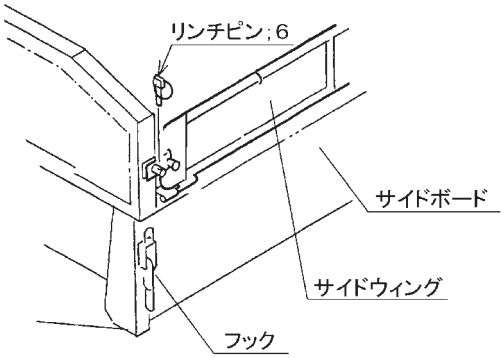
2　サイドボードの開閉

1．サイドウィングが倒れないように、上部を手でおさえながら、リンチピン;６を外してください。
2．サイドウィング上部をおさえたまま、フック２箇所を外してください。
3．サイドウィング上部の中央（長手方向に対して中央部）を持ち、手前に軽く引きながら回転させて、サイドウィングとサイドボードを完全に開いてください。

⚠ 注 意

- サイドボードを勢いよく開閉すると、フレームから外れて落ちケガをすることがあります。
  開閉は静かに行ってください。

4．閉める場合は、逆の手順で行ってください。



3　トラクタからの切り離し

⚠ 警 告

- 作業機をトラクタから切り離すとき、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業機をトラクタから切り離すとき、輪止めをせずに行うと、作業機が暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
  切り離すときは、必ず、スタンドを接地させ、作業機の車輪に輪止めをしてください。

1．標準ヒッチの場合

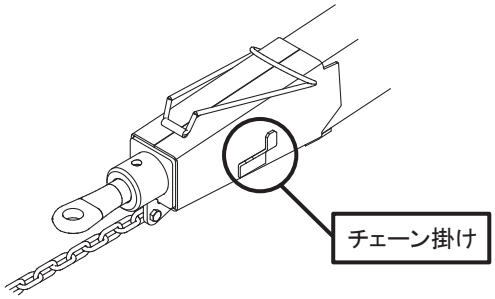
（1）トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
（2）作業機の車輪に輪止めをかけてください。
（3）ＰＴＯ軸からパワージョイントを外してください。
（4）ジョイントスタンドを立て、パワージョイントをたてかけてください。
（5）作業機のスタンドを立て、ヒッチカンがトラクタのドローバから浮き上がるまでスタンドハンドルを回してください。
（6）連結ピンの抜け止めピンを外し、連結ピンを抜いてください。
（7）トラクタのエンジンを始動し､静かに前進させ、ドローバからヒッチカンを外してください。
（8）取り外した連結ピンは、抜け止めピン共に、保管してください。

2．２Ｐ倍角ヒッチの場合

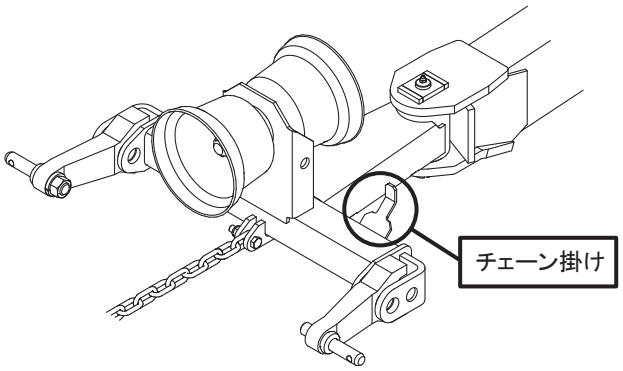
（1）トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
（2）作業機の車輪に輪止めをしてください。
（3）ＰＴＯ軸からパワージョイントを外してください。
（4）キャスタが下向きとなるようスタンドを付け換えてピンで固定し、接地するまで２Ｐ倍角ヒッチを下げてください。
（5）ロワーリンクピンに差し込まれているリンチピンを抜きロワーリンクピンからロワーリンクを抜いてください。
（6）トラクタのエンジンを始動し、静かに前進させてください。
（8）取り外したリンチピンは保管してください。

3．セーフティーチェーンの取り扱い

作業機をトラクタから切り離し、作業機単独で保管するときは、セーフティーチェーンを一時的に本機へ掛けておくことができます。



標準ヒッチ



2P倍角ヒッチ

4　長期格納するとき

1．機体各部の清掃をしてください。
2．摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。
3．「2-3　給油箇所一覧表」に基づき、油脂を補給してください。
　また、回転、回動支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部には注油し、ＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸、パワージョイントのスプライン部にはグリースを塗布してください。
4．塗装損傷部は、補修塗装または油を塗布し、さびの発生を防いでください。
5．格納は風通しのよい屋内に保管してください。

5　点検と整備について

調子良く作業するために、定期的に行いましょう。機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「5-1 点検整備一覧表」に基づき、各部の点検・整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

⚠ 注 意

- ＰＴＯおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

- 点検整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
  元通りに取り付けてください。

アタッチメントについては、アタッチメントに付属している取扱説明書の「点検と整備について」の説明に基づきアタッチメントを点検整備してください。

1　点検整備一覧表

時　　間	チェック項目	処　　置
新品使用 1 時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
使　用　毎 （始業終業点検）	機械の清掃 ギヤボックスのグリース パワージョイントの破損 安全カバーの損傷 ホイールナットのゆるみ タイヤの亀裂・損傷 タイヤの異常摩耗 タイヤの空気圧 床コンベヤチェーンのテンション 各部の損傷、部品脱落 各部のボルト・ナットのゆるみ 各部の給油 リヤランプ・バックランプ・ポジションライト	グリース補充 部品交換 〃 「2-1-4 マニュアボディの点検」および「2-1-6 重要点検箇所」に基づき増し締め 交　換 〃 「2-1-4 マニュアボディの点検」に基づき調整 「5-2-2 床コンベヤチェーンのテンション」に基づき調整 部品交換、取付 増し締め 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油 動作確認
シーズン終了後	機械の清掃 ギヤボックスのグリース タイヤの溝深さ 各部の損傷、部品脱落 コンベヤチェーンの伸び 各部のボルト・ナットのゆるみ 各部の給油 塗装損傷部 リヤランプ・バックランプ・ポジションライト	グリース補充 溝が浅ければ交換 部品交換、取付 「5-2-2 床コンベヤチェーンのテンション」に基づき調整、または全数交換 全ボルト・ナットの増し締め 「2-1-4 マニュアボディの点検」および「2-1-6 重要点検箇所」に基づき増し締め 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油 塗装または油塗布 動作確認

2　各部の調整

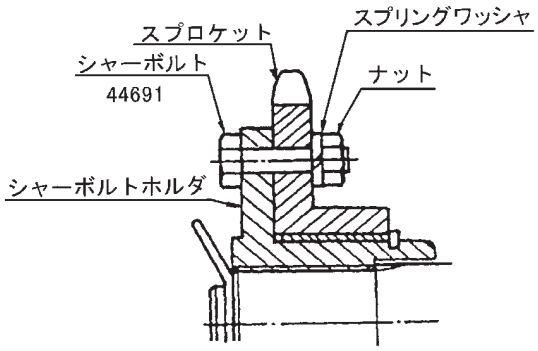
⚠ 注 意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ＰＴＯおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

1. シャーボルトの交換

過負荷から各部を守るため、機体後方にシャーボルトを装備しています。また、予備のシャーボルトは機体前方に取り付けています。シャーボルトの交換は、次の手順で行ってください。

（1）シャーボルトが切断したときは、必ず原因を調べ、その原因を取り除いてから行ってください。
（2）切断されたシャーボルトをシャーボルトホルダから取り除いてください。
（3）シャーボルトホルダを手で回し、スプロケットとシャーボルトホルダのシャーボルト穴を合わせてください。
（4）当社指定のシャーボルトを通し、ナットを組み込み、締め付けて固定してください。

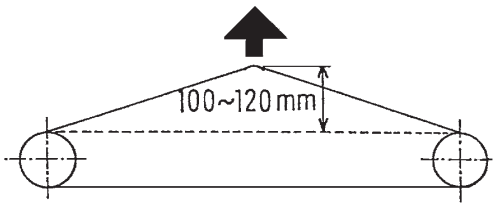


取扱い上の注意

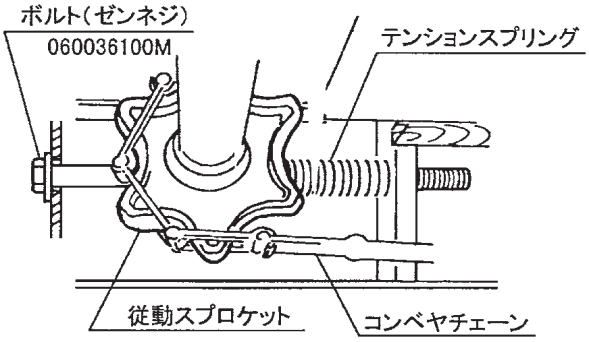
- シャーボルトの切断の原因を取り除かずに、新しいシャーボルトを取り付けても、再度、切断されます。必ず原因を調べ、その原因を取り除いてから行ってください。
- 当社指定以外のシャーボルトを使用すると、過負荷に対し、切断されず機体各部の破損原因になったり、正規の使用状態にもかかわらず、すぐにシャーボルトが切断される事があります。
  当社指定のシャーボルトを使用してください。
- 当社指定のシャーボルトを使用していても、高速回転でＰＴＯクラッチを入れたり、本作業機の適正回転数以外で使用すると、シャーボルトが切断される事があります。
  ＰＴＯの接続は、低速回転で接続後、本作業機の適正回転数にセットして作業してください。

2. 床コンベヤチェーンのテンション

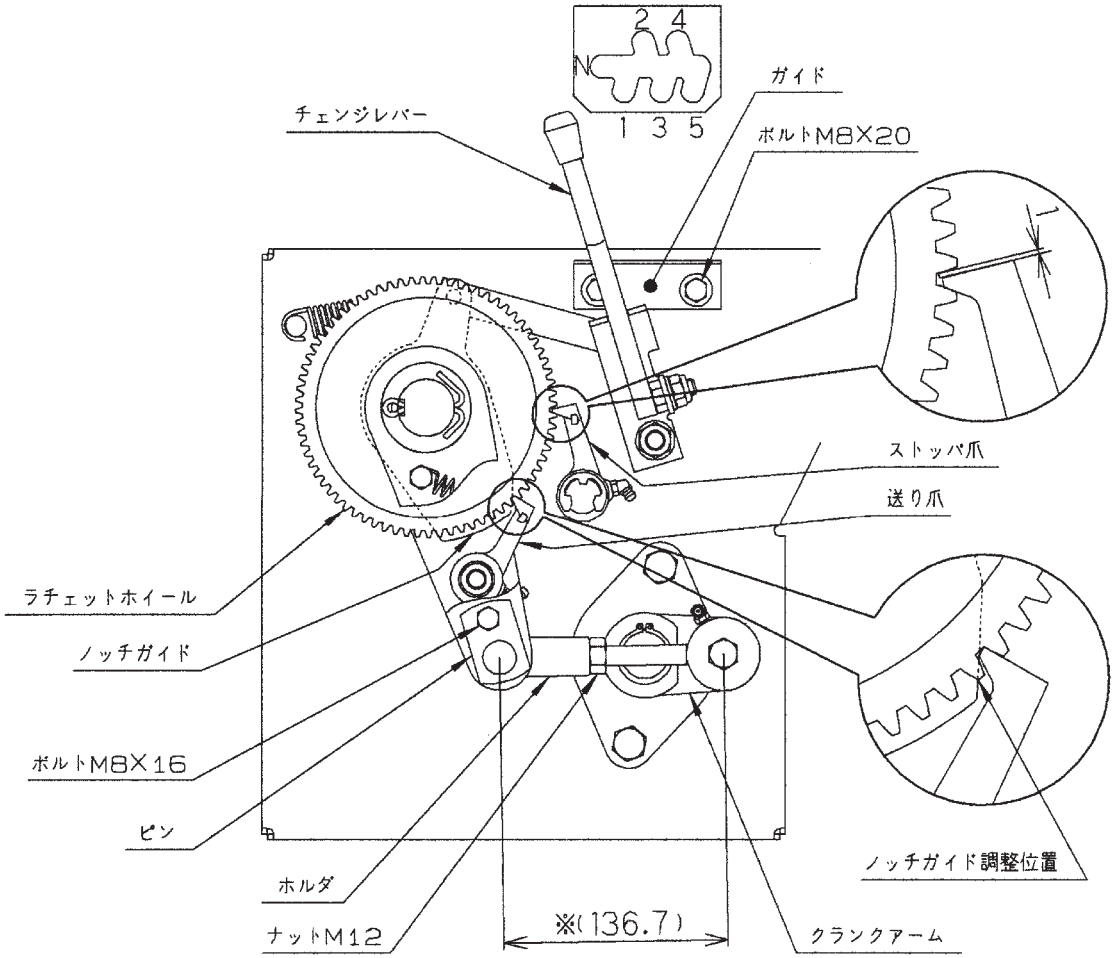
（1）荷箱内に入り、コンベヤチェーンの中央を40kgf の力で持ち上げたとき、チェーンが 100 ～ 120㎜ 持ち上がるようにセットします。



（2）左右のコンベヤチェーンの持ち上がる量が同じになるように、左右のボルト（ゼンネジ）を締め込んでください。



3. 床コンベヤ駆動部の調整



※図中の（ ）寸法は目安とし、調整要領に基づき調整してください。

（1）カバーを外してください。
（2）チェンジレバーをNにセットしてください。
（3）ストッパ爪とノッチガイドの調整
　1）ストッパ爪とラチェットホイールの歯面の間に1㎜の隙間を開けます。
　2）ノッチガイドが図に示す位置（ラチェットホイールの歯面の角がノッチガイドの面と重なる位置）となるようボルトM8×20を緩めてガイドを左右させ調整してください。
　　調整後は元通り固定してください。
（4）ストッパ爪と送り爪の調整
　1）クランクアームが図に示す位置（上死点。送り爪がラチェットホイールを送り終え、送り爪がラチェットホイールの歯面と接した状態）に合わせてください。
　2）1）の状態でストッパ爪とラチェットホイール歯面の間に1㎜の隙間が開くようホルダで調整してください。
　　・1㎜より広い場合は、ピンを抜きホルダを反時計回りに回してください。
　　・1㎜より狭い場合は、ピンを抜きホルダを時計回りに回してください。
　　ホルダは、ナットM12を緩め、ピンを固定しているボルトM8×16を外してピンを抜き、回してください。
　　調整後は元通り固定してください。
（5）クランクアームが1回転したとき、チェンジレバー1～5でそれぞれラチェットホイールの歯が1～5つ、ストッパ爪を乗りこえるか確認してください。また、チェンジレバーNでラチェットホイールの歯がストッパ爪を乗りこえないことを確認してください。
（6）カバーを取付け、固定してください。

6　不調時の対応

エンジンをとめてから処置してください。
トラブルが発生したら「6-1 不調処理一覧表」に基づき処置してください。
アタッチメントにトラブルが生じたら付属している取扱説明書の「不調時の対応」の説明に基づき処置してください。

⚠ 警 告

- 配線に損傷があると、発煙・発火につながるおそれがあります。
  損傷がある場合には作業を中止し、部品交換を行ってください。

⚠ 注 意

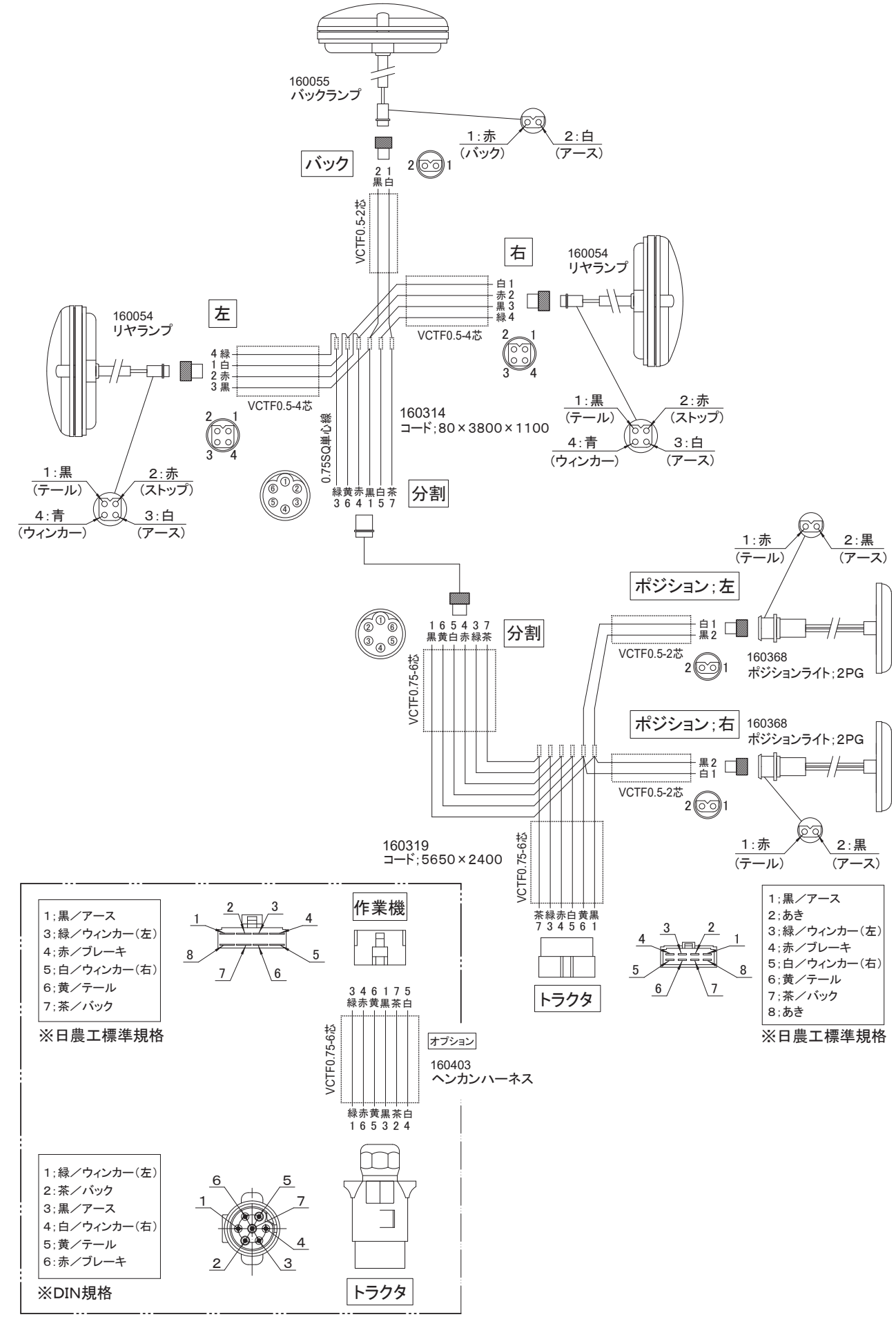
- ＰＴＯ及びエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部が止まっていることを確かめて行ってください。
- 不調処置のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
  元通りに取り付けてください。

1　不調処置一覧表

症　状	原　因	処　置
床コンベヤが動かない	ギヤ・シャフトの破損	部品交換
	コンベヤチェーンの破損	部品交換のうえ、「5-2-2 床コンベヤチェーンのテンション」に基づき張り直し
	コンベヤチェーンの外れ	テンションボルトをゆるめ、スプロケットにかけ直し、「5-2-2 床コンベヤチェーンのテンション」に基づき張り直し
ギヤボックスが異常発熱する	グリース量が不足	「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油
	ベアリング、ギヤ、シャフトが破損	部品交換
機体がふらつく	左右のタイヤ空気圧がアンバランス	「2-1-4 マニュアボディの点検」に基づき適正空気圧にする
	ホイールナットがゆるんでいる	「2-1-6 重要点検箇所」に基づき増し締めする
	ハブベアリングの摩耗	キャッスルナットの増し締めまたはベアリングの部品交換
リアランプ・バックランプ・ポジションライトが点灯しない、もしくはトラクタ側の動作と連動しない	コードの接続不良または断線 ランプの破損 バッテリ劣化による電圧の低下 本機およびトラックの配線間違い	補修または部品交換 バッテリ電圧（１２V）の確認、充電、交換 配線の確認

原因や処置のしかたがわからない場合は下記事項とともに購入先にご相談ください。
1．製品名
2．部品供給型式（型式）
3．製造番号
4．故障内容（できるだけ詳しく）

2　配 線 図


160055
バックランプ
1：赤
（バック）
2：白
（アース）
バック
2 1
黒 白
VCTF0.5-2芯
右
160054
リヤランプ
白 1
赤 2
黒 3
緑 4
VCTF0.5-4芯
左
160054
リヤランプ
4 緑
1 白
2 赤
3 黒
VCTF0.5-4芯
1：黒
（テール）
2：赤
（ストップ）
4：青
（ウィンカー）
3：白
（アース）
0.75SQ単心線
160314
コード；80×3800×1100
緑 黄 赤 黒 白 茶
3 6 4 1 5 7
分割
1：赤
（テール）
2：黒
（アース）
ポジション；左
1 6 5 4 3 7
黒 黄 白 赤 緑 茶
分割
白 1
黒 2
VCTF0.5-2芯
160368
ポジションライト；2PG
VCTF0.75-6芯
ポジション；右
160368
ポジションライト；2PG
黒 2
白 1
VCTF0.5-2芯
160319
コード；5650×2400
VCTF0.75-6芯
茶 緑 赤 白 黄 黒
7 3 4 5 6 1
1：赤
（テール）
2：黒
（アース）
トラクタ
1；黒／アース
2；あき
3；緑／ウィンカー（左）
4；赤／ブレーキ
5；白／ウィンカー（右）
6；黄／テール
7；茶／バック
8；あき
※日農工標準規格
作業機
1；黒／アース
3；緑／ウィンカー（左）
4；赤／ブレーキ
5；白／ウィンカー（右）
6；黄／テール
7；茶／バック
※日農工標準規格
3 4 6 1 7 5
緑 赤 黄 黒 茶 白
VCTF0.75-6芯
オプション
160403
ヘンカンハーネス
緑 赤 黄 黒 茶 白
1 6 5 3 2 4
1；緑／ウィンカー（左）
2；茶／バック
3；黒／アース
4；白／ウィンカー（右）
5；黄／テール
6；赤／ブレーキ
※DIN規格
トラクタ

7　型式一覧表

1　マニュアスプレッダ型式一覧表

マニュアスプレッダ 型式		本体ユニット 型式	本体ユニット 仕様		ビータアタッチメント 型式	ビータアタッチメント 仕様
TMS1182M	＝	TMS1182	標準ヒッチ	＋	AMN1861	ダブルビータアタッチメント
TMS1582M		TMS1582				
TMS1882M		TMS1882				
TMS2082M		TMS2082				
TMS1182W	＝	TMS1182	標準ヒッチ	＋	AWB1821	ワイドビータアタッチメント
TMS1582W		TMS1582				
TMS1882W		TMS1882				
TMS2082W		TMS2082				
TMS1182D	＝	TMS1182	標準ヒッチ	＋	ADW1821	ディスクビータアタッチメント
TMS1582D		TMS1582				
TMS1882D		TMS1882				
TMS2082D		TMS2082				
TMS1192M	＝	TMS1192	倍角ヒッチ	＋	AMN1861	ダブルビータアタッチメント
TMS1592M		TMS1592				
TMS1892M		TMS1892				
TMS2092M		TMS2092				
TMS1192W	＝	TMS1192	倍角ヒッチ	＋	AWB1821	ワイドビータアタッチメント
TMS1592W		TMS1592				
TMS1892W		TMS1892				
TMS2092W		TMS2092				
TMS1192D	＝	TMS1192	倍角ヒッチ	＋	ADW1821	ディスクビータアタッチメント
TMS1592D		TMS1592				
TMS1892D		TMS1892				
TMS2092D		TMS2092				

※エレベータワゴンは、公道走行に対応していません。

調　整	Ｓ－２１０３２６Ａ

千歳本社 066-8555 千歳市上長都１０６１番地２
TEL 0123-26-1123
FAX 0123-26-2412

千歳営業所 066-8555 千歳市上長都１０６１番地２
TEL 0123-22-5131
FAX 0123-26-2035

豊富営業所 098-4100 天塩郡豊富町字上サロベツ１１９１番地４４
TEL 0162-82-1932
FAX 0162-82-1696

帯広営業所 080-2462 帯広市西２２条北１丁目１２番地４
TEL 0155-37-3080
FAX 0155-37-5187

中標津営業所 086-1152 標津郡中標津町北町２丁目１６番２
TEL 0153-72-2624
FAX 0153-73-2540

花巻営業所 028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第１１地割１２０番３
TEL 0198-46-1311
FAX 0198-45-5999

仙台営業所 984-0032 宮城県仙台市若林区荒井５丁目２１－１
TEL 022-353-6039
FAX 022-353-6040

小山営業所 323-0158 栃木県小山市梁２５１２－１
TEL 0285-49-1500
FAX 0285-49-1560

東海営業所 485-0081 愛知県小牧市横内字立野６７８－１
TEL 0568-75-3561
FAX 0568-75-3563

岡山営業所 700-0973 岡山県岡山市北区下中野７０４－１０３
TEL 086-243-1147
FAX 086-243-1269

熊本営業所 861-8030 熊本県熊本市東区小山町１６３９－１
TEL 096-389-6650
FAX 096-389-6710

都城営業所 885-1202 宮崎県都城市高城町穂満坊１００３－２
TEL 0986-53-2222
FAX 0986-53-2233

☆. ０３.０３.３Ｓ Ⓐ